

◆漁業士活用育成事業

平成22年度漁業士認定事業

水産業改良普及センター 平安名盛正

1. 漁業士認定及び審査状況

漁業士制度は、地域漁業の振興と中核的漁業者育成を目的に昭和 61 年からスタートしました。本県でも昭和 61 年には、6 名の漁業士が認定され、平成 21 年度現在 42 名の漁業士が漁業士会に入会し、地域リーダーとして活躍されています。その内訳は、名誉指導漁業士 3 名

指導漁業士 32 名 青年漁業士 8 名となっています。平成 22 年 12 月 15 日に県庁において平成 22 年度 漁業士認定審査会が開催され、5 漁協より推薦を受けた、指導漁業士候補 2 名と青年漁業士候補 5 名について審査が行われました。その結果、新たに指導漁業士 2 名と青年漁業士 5 名が認定を受けました。

2. 平成22年度漁業士紹介

●指導漁業士（宜野座漁協）

仲栄真 盛昌（なかえま せいしょう）
昭和 24 年 11 月 27 日生（60 歳）

モズク養殖業 刺網、ウニ漁を主体とした営んでいます。任意組合時代から 30 代の若さで組合長として組合運営にも携わってきました。現在、長男と一緒に漁業に従事する中、組合監事として務めながら後輩指導に尽力しています。

●指導漁業士（勝連漁協）

上原 哲文（うえはら てつぶん）
昭和 41 年 9 月 18 日生（44 歳）

モズク養殖業を主体として営んでいます。3 年間の見習い期間を経て、平成 3 年に勝連漁協正組合員として加入しまし

た。平成 12 年には、青年漁業士として認定を受けました。また、昨年までは漁協青壮年部長として地域イベントにも積極的に参加し、部会活動の活性化に尽力されました。

●青年漁業士（伊平屋漁協）

新里 斉士（しんざと よしと）
昭和 55 年 10 月 16 日生（29 歳）

漁船漁業を主体としながら、遊漁船漁業との複合漁業を営んでいます。青年部活動にも積極的で、現在、副部長として務めています。青年部員の中には、新里氏の漁業経営方法を模範とする部員もあり、伊平屋漁協として期待される人材です。

●青年漁業士（名護漁協）

岸本 幸次（きしもと こうじ）
昭和 49 年 9 月 14 日生（36 歳）

漁船漁業主体でソデイカ漁、マグロ漁、メカジキ漁を営んでいます。メカジキ漁については、昨年から広まりだした漁法であり、名護漁協組合員の中でも初めて岸本氏が取り組み、漁法確立の期待が大きい中、岸本氏の取り組みが名護漁協においても注目されています。

●青年漁業士（石川漁協）

伊波 英明（いは ひであき）
昭和 52 年 10 月 18 日生

中学を卒業後、父の元で漁師として歩み、平成 6 年に正組合員となりました。漁協経営にも積極的に参加し、現在筆頭理事を務めています。新しい技術や知識習得にも積極的に取り組み、若手漁師へ

の技術指導にも尽力し、石川漁協では多くの組合員からも人望が厚く頼りにされています。

● 青年漁業士（石川漁協具志川支所）

平川 隆（ひらかわ たかし）

昭和 53 年 12 月 22 日生（31 歳）

具志川支所でも数少ない漁業後継者で、現在具志川支所パヤオ部会長として務め、組合員の若き良きリーダーとして尽力しているところです。平川氏は、常に効率的な漁業経営を目指し、経営の安定化と漁業生産増大のために積極的に情報収集や新規漁法の取り組みに努めています。

● 青年漁業士（糸満漁協）

国吉 農（くによしみのり）

昭和 47 年 5 月 24 日生（38 歳）

マグロ漁、ソデイカ漁を中心とした漁船漁業を主体として営んでいます。平成 18 年から 2 年間は青年部長として務め、昨年 7 月には、漁協理事に就任し、青年部活動から組合運営にと活躍しています。また、昨年 10 月には県漁協青壮年部連絡協議会副部長に選任され、糸満に留まらず、全県的な青壮年部活動へと活躍。場を広げています。



漁業士一同



上原氏の認定書授与



伊波氏の認定書授与



指導漁業士の仲栄真氏と上原氏